



はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大が報じられてから早くも1年近くが経とうとしている。学校だけでなく、社会、世界全体で感染症対策に取り組むこととなった。「新しい生活様式」、「with コロナ」、「3密の回避」など、さまざまな標語とともに私たちの行動は制限され、変容を余儀なくされてきた。そのような中、今年はいわゆる「入試改革」の年でもあり、進路活動においてもその様相は大きく変化した。

入試改革と一口に言っても、その実情は多岐にわたる。大きな変化を挙げるとすれば、大学入試センター試験が大学入学共通テストに変わったことだろう。名称の変更とともに試験内容も刷新された。たとえば英語では、筆記200点、リスニング50点だった配点が100点ずつと同じ比重になり、従来出題されていた発音・アクセント、文法・語法問題がなくなり、日常生活で触れる英語でのやりとりや資料を読み解く問題など、英文量の増加や思考力・判断力・表現力を問われる形式に変わった。また、面接や小論文を必要とする総合型選抜（旧AO入試）や学校推薦型選抜（指定校推薦や公募制推薦）の日程も一般選抜の日程と近くなり（少し後ろにずれ）、受験の準備や計画もよりいっそうの工夫が必要となってきた。さらに一つ一つの大学の入試要項に目を向ければ、実に多種多様な試験内容や日程となっていることがわかるだろう。各教科の受験勉強に力を入れることはもちろん、大学の特色や試験についての情報を早いうちに集め、比べ、受験スケジュール（作戦）を立てる力も求められている。

さて、新型コロナウイルスによる生活の変化や入試改革による受験の変化、これら2つの変化に対応しながら15期生は進路決定の年を迎えた。本来であれば、部活動や行事をやりきってモードを切り替えるはずであったが、それは叶わず、実は2年のあの日が高校生最後の行事、試合、活動となってしまった人も多かったことだろう。これ以上の不完全燃焼はないように思う。しかし、そんな中でも15期生は常に変化に立ち向かい、この1年間を戦った。できない中で最大限できることを全力で。進路結果はもちろん一人ひとりを注視すべきではあるが、あえて全体を見れば、先輩方に匹敵する結果を残せたのではないだろうか。

これからみなさんに読んでもらう15期受験体験記集（VOICES）は、15期生がこうした変化をどのように乗り越え、そしてどのように自分自身と戦ってきたかが書かれている。そんな彼らの「声」はみなさんにとってどんな情報よりも新鮮でリアルであることだろう。ただし、この体験記のとおりに行動すればよいというものではない（実際に体験記の中には失敗談も書かれている）。何より、この体験記を読んで自分ならどう動くか、どう考えるかを大切にしてほしい。そして1年後、実際に自分がやってみたことや考えたことをみなさんの「声」にして、次の後輩たちへ届けてほしい。進路活動を通して、みなさんが大きく成長し、そして自信を持って大きな決断ができることを願って。